

2023（令和5）年度事業報告

コロナウイルス感染症で抑制された社会経済活動は、コロナ禍の3年間を乗り越え改善しつつある。当協会としても大きく制約を受けた社会貢献活動や地域会・同好会活動において、コロナ禍からの社会経済活動の正常化が進むなかで、当協会の活動復活に努め社会参加機会を拡大し、大規模なチャリティコンサートも復活させた。

超高齢社会を迎え後期高齢者も増え続ける我が国において、高齢者の孤立や孤独を防ぐためにも、社会参加活動など人と人が関わりあう機会を増やす必要がある。また、引き続き平均寿命と健康寿命の差を少しでも縮め、元気に活動できる期間を伸ばすことが課題とされている。

このような背景のもと、当協会は、高齢者の社会参加活動を積極的に支援するために、チャリティコンサートをはじめ、「認知症予防活動」（きたざわサロン）等の社会貢献活動やSDGs協働事業に加え、「いきいきシニア塾」も開始し、フレイル防止活動に取り組んできた。以下、当期事業活動について詳述する。

I 公益事業…高齢者の社会参加支援

1. 社会参加支援事業（定款第4条第1項第1号事業）

（1）社会貢献促進事業

① チャリティコンサート

・2024年1月に銀座ブロッサムホールで東京都善意銀行を通じて福祉施設関係者193人を招待して、チャリティコンサートを開催し、482名が参加した。広島支部でも引き続きエリザベト音楽大学との共催で留学生支援のためのチャリティコンサートを開催し100人が参加した。

② SDGs協働事業

・8月に「下水道展『23札幌』」に出展し、協会のPRをした。
・10月に西東京市東小学校で施設開放運営協議会主催の放課後子供教室で竹とんぼ教室を開催し、40人が参加した。
・玉川高島屋SCで、4・8・12月、24年3月に「動くおもちゃシリーズ」教室を開催し、合計で24人が参加した。

③ 認知症予防事業

平成22年以来毎月1回認知症予防事業「きたざわサロン」を開催し、新型コロナウイルスのため2年半休止した後昨年度から再開し、今年度は10回開催し合計132名が参加した。

④ いきいきシニア塾

いきいきと人生を過ごすための情報提供を目的として今年度から開始した。9月「明日をいきいきと生きるために」、10月「食について」、24年1月「認知症とうつ病」、3月「人生を楽しみたい」を開催し合計160名が参加した。

⑤ 「私の大切な覚書き」(エンディングノート)

万が一に備え、本人の考え方や希望などを整理し、記録しておくためのエンディングノート「私の大切な覚書き」は、14年目の今年度10,300部を頒布し、累計40万部を超えた。

⑥ 寄付

能登半島輪島義援金20万円、広島支部は中国新聞を通じ94,400円を寄付した。チャリティーサロンコンサートでは、193人対し48万円相当の招待寄付を行った。埼玉会では埼玉県福祉協議会に5万円、広島支部では例年どおり留学生支援のため、10万円を公益財団法人広島平和文化センターに寄付した。

(2) イベント事業ほか

① イベント事業

幅広いイベントの実施は高齢者の「社会参加と生きがい」「自立と助け合い」につながる重要な行事である。各イベントはコロナ後の行動制限が解除されるなか積極的に実施した。2023年度は関東16、広島29の地域会・同好会でイベントなど(別紙参照)を実施し、延参加人数は約9,200名となった。

② 地域会活動

関東地区は活動地域が広域なため、神奈川県(神奈川会)、埼玉県(埼玉会)、東京多摩地区(西東京会)、東京23区及び千葉県(京葉会)の4地域に分け、それぞれ地域会を置いて地域に密着したイベント活動を行っている。

③ 広島支部の主な活動

・二木会は毎月開催し年間延出席者数1062人、世話人交流会年間延出席者数95人、同好会活動年間5097名が参加した。

・留学生との交流:9月12人の留学生と卓球大会開催。12月の定例交流会には合計61人参加した。

・ボランティア活動:11月に開催された「国際フェスタ2023」に44人が参加した。

2. 対外事業（定款第4条第1項第2号事業）

当協会が会員となっている高齢社会 NGO 連絡協議会から紹介された各種セミナー・講演会に参加するとともに、介護問題などに取り組んでいる各種団体と協議を行った。

3. 研修・講座事業（定款第4条第1項第3号事業）

12月に「父・森繁久彌を語る」をテーマに、講師森繁建氏を招いて「ふれあいトークサロン」を開催し、39名が参加した。

4. 広報事業（定款第4条第1項第4号事業）

イ. 機関誌「マチュリティ」

外部関連団体、法人・個人会員向けに7月と1月の年2回発行。

社会に求められる社会貢献活動やSDGs協働事業の取組みの状況と成果、時宜にかなった特集記事、ふれあいトークサロンの講話、談話室、ひとこと、イベント日より、各地域会日より等、協会と会員の活動に関する記事を掲載し、外部への広報と会員相互間の啓発および交流をはかった。

ロ. ホームページ

協会の概要、事業報告等の情報公開、イベント活動報告、機関誌「マチュリティ」の内容などを掲載している。今年度は個人会員がイベントの把握・申込がしやすくなるよう、トップページなどを改訂した。

II 収益事業

1. コンサルティング事業（定款第4条第1項第6号事業）

勤労者向け福祉活動の一環として企画された「福利厚生施設のアウトソーシング」事業に協力し、企業の採用にともない仲介手数料収入を得ている。

III その他事業

1. ニュース発行事業（定款第4条第1項第6号事業）

法人・個人会員（非会員を含む）むけにイベント案内などを行う。

発行頻度は関東・広島ともに年6回（奇数月）となっている。文書による案内をメール配信もしくは郵送するほか、ホームページにも掲載して広くイベントへの参加を呼び掛けている。

2. 親睦事業（定款第4条第1項第5号事業）

イ. 「はつらつふれあいの集い」個人会員親睦会

11月神保町のNLPジャパンラーニングセンターで開催し、52名が参加した。各活動のパネル展示やアトラクション・抽選会などで盛り上がった。

ロ. 広島支部では、新年懇親会（93人参加）、新入会員の集い（9月と24年3月で合計75人参加）を開催した。

IV 当面の課題…運営基盤の強化

1. 法人会員

2023年度は退会が1社、入会が1社あったため年度末現在の会員数は26社となっている。引続き会員の獲得に取り組む。また現会員への連絡・報告を密にし、一層の支援を得るよう努める。

2. 個人会員

コロナによる行動制限や高齢化に伴う退会者が多く、数年にわたり正会員数の減少が続いており、年度末現在の会員数は次のとおりである。一般高齢者にも協会の活動を広くPRし、なお一層の会員増を目指す必要がある。

関東地区	556名	(うち正会員 360名、家族会員 196名)
広島地区	539名	(うち正会員 396名、家族会員 143名)
合計	1,095名	(うち正会員 756名、家族会員 339名)

3. 持続可能な協会運営

- * 財政基盤の強化（会員増強・寄付金募集・エンディングノートの頒布など）
 - ・ 会員増強：前記1、2のとおり
 - ・ 寄付金募集：会員173名から88万円の寄付を受ける
 - ・ エンディングノートの頒布：ジブラルタ生命以外の金融機関から受注なし

* 協会運営の効率化：5年間にわたり経費を削減

今後とも、SDGs活動とフレイル防止活動などを中心として新規法人会員・個人会員の獲得に努めるとともに幅広く外部からも寄付が募れるよう取り組んでいく。また、コンサルティング事業及び「私の大切な覚書き」の頒布や新規事業の開発に引続き積極的に取り組む一方、事務処理の改革など効率的に業務運営を行う。

以上